

海賊版本にした張本人、新駐日韓国大使への意見広告

『日帝下 戦時体制期政策史料叢書』事件被告 レインボー通商 宮川 淳

新駐日韓国大使・姜昌一(강창일)氏(以下敬称略)は、韓国で発行された『日帝下 戦時体制期政策史料叢書』全 98 巻(発行・韓国学術情報)を海賊版にした張本人である。

『同叢書』は海賊版か否かで裁判沙汰にまでなった物件で、原告は発行の韓国学術情報・代表理事、蔡鐘俊、被告は私、レインボー通商宮川。

裁判になった経緯は、Harvard-Yenching Library で『同叢書』は「出所の明示がない、間違いなく無許可でコピー販売しているものと思われる。アメリカではこうした剽窃に対する意識は非常に高く、学生のペーパーの指導でも徹底している、厳罰に処せられることになる」と話題になっていたので、その話題とともに『同叢書』は海賊版」と、レインボー通商セールスマールの「高麗書林海賊版」シリーズで紹介したからである。

「海賊版」と述べていることが問題と、韓国学術情報・蔡鐘俊が原告になり、東京・高麗書林とでレインボー通商宮川を提訴してき、2006 年から裁判沙汰になった事件である。

大韓出版文化協会、日本の裁判所(2008 年)でも『同叢書』は編集著作権侵害、不正行為＝「海賊版」と認定され、韓国文化観光部も韓国学術情報にその旨指摘している。

裁判に関わり、『同叢書』の作り方を知る者らからは、どの部分がどこから無断複製収録されているか、ノド部分の活字打ちが何巻にも渡っていることの無気付き、原本ノンブルの取り忘れがあり、それらを見抜く格好の「海賊版解説学習教材」と言われている。かつ、無断複製する際に左右反対に収録など、作りも杜撰だ。

日本に所蔵される、日本の出版社のもの無断複製では、『同叢書』第 1 巻～24 巻に不二出版『朝鮮総督府 帝国議会説明資料』第 1～10 巻が、『同叢書』27 集には龍溪書舎「朝鮮総督府文書課編纂 諭告訓示演術總攬第二輯」『日本植民地教育政策史料集成(朝鮮篇)』が無断収録されている。

『同叢書』案内には、大野緑一郎文書と日本陸海軍省文書などは姜昌一が日本留学当時に収集したものとあり、奥付には「この本は韓国学術情報と著作者間に出版権契約が締結された図書」とある。知的財産権を侵害されているたとえば不二出版は、発行元の韓国学術情報に侵害料を請求しているが今までなしのつぶてだ。知財を侵害されている国立国会図書館、防衛省か、友邦協会・中央日韓協会文庫、出版社(編集復刻版『朝鮮総督府諭告・訓示集成』の緑蔭書房もか)や、私などにとってはこの事件はまだ終わっていない。

姜昌一には自ら関わった海賊版本を謝罪し清算して、この事件を終わらせ、日韓の学術界、出版界の友好の一つにぜひ寄与していただきたい。駐日韓国大使に就いた今が絶好のチャンスである。

謝罪、清算するのに、もし私の協力があればと思うならお手伝いはやぶさかではない。うまく解決、終わらすことができた暁には、高知のひろめ市場ででも一杯やりましょう。